

催し物のご案内 (6月～9月)

観察会・講座等

1. 植物分類・生態講座「コケ入門」  
[箱根町小涌谷]  
日時：6月28日(土) 10:00～15:00  
対象：一般50名(抽選)  
募集：5月20日(火)～6月10日(火)
2. 野外観察「水辺の昆虫ウォッチング」  
[未定]  
日時：7月12日(土) 10:00～15:00  
対象：小中学生とその保護者50名(抽選)  
募集：6月3日(火)～6月24日(火)
3. 博物館スクール「夜の昆虫探検隊」  
[厚木市鳶尾山]  
日時：7月20日(日)～7月21日(月)  
対象：小中学生とその保護者50名(抽選)  
募集：6月10日(火)～7月1日(火)
4. 博物館スクール「大きくしてみよう」  
[博物館]  
日時：7月22日(火) 13:30～16:00  
対象：小・中学生20名(抽選)  
募集：6月17日(火)～7月8日(火)
5. 博物館スクール「中津層の化石」[博物館]  
日時：7月29日(火)・30日(水) いずれも10:00～16:00  
対象：小学生とその保護者・中学生40名(抽選)  
募集：6月17日(火)～7月8日(火)
6. 博物館スクール「博物館探検隊」[博物館]  
日時：8月26日(火) 10:00～15:00  
対象：小中学生40名(抽選)  
募集：7月15日(火)～8月5日(火)

7. 野外観察「きのこウォッチング」[未定]  
日時：9月13日(土) 10:00～15:00  
対象：小・中学生とその保護者50名(抽選)  
募集：8月5日(火)～8月26日(火)
8. 研究テクニック講座「化石を調べよう」  
[博物館]  
日時：9月20日(土)・21日(日)・27日(土)・28日(日) いずれも10:00～16:00  
対象：一般40名(抽選)  
募集：8月12日(火)～9月2日(火)

応募方法：往復はがきに参加行事名、参加代表者の住所、氏名、電話番号(連絡先)、参加する人と全員の氏名と年齢(学年)を明記して、お申し込みください。応募多数の場合は抽選となります。

「身近な自然発見講座」

毎月第3水曜日に、一般の方を対象に、博物館周辺での自然観察や館内での実習・実験をする身近な講座を開催しております。参加費は無料ですが、バス代・電車賃が必要なことがあります。事前の申し込みはいりません。当日、歩きやすい服装で、博物館正面玄関にお集まりください。雨天の時は中止します。持ちもの：筆記用具、ルーペ、昼食、水筒、雨具、双眼鏡

- 6月18日(水) 10:00～15:00
- 7月16日(水) 10:00～15:00
- 9月17日(水) 10:00～15:00

館の活動

平成8年度

- 1月11日 野外観察「地形ウォッチング」  
【参加者24名】[箱根町駒ヶ岳] (講師：学芸員 山下浩之、新井田秀一)
- 1月15日 野外観察「身近な自然発見講座—野鳥の観察を中心として—」【参加者31名】[博物館周辺] (講師：学芸員 中村一恵、新井一政、田口公則)
- 1月19・20日 室内学習「図鑑を作ろう—魚編—」【参加者10名】[博物館] (講師：学芸員 瀬能宏)
- 2月2・9・16・23日 地球科学講座「石・大地・地球をみる」【参加者49名】[博物館] (講師：学芸員 小出良幸、新井田秀一、山下浩之)
- 2月8日 野外観察「モンキーウォッチング」【参加者22名】[博物館周辺] (講師：野生動物保護管理事務所 岡野美佐夫、学芸員 広谷浩子)
- 2月19日 野外観察「身近な自然発見講座—野鳥の観察を中心として—」【参加者37名】[博物館周辺] (講師：学芸員 中村一恵、田口公則、田中徳久)
- 2月28日 神奈川自然誌資料第18号発行
- 3月1日～5月11日 特別展『櫻井コレクションの魅力』開催
- 3月1日 特別展講演会「櫻井コレクションの魅力」【参加者58名】講師：館長 濱田隆士
- 3月1・2日 室内実習・野外観察「植物の分類・生態講座—冬芽入門—」【参加者47名】[博物館と湯河原町] (講師：学芸員 勝山輝男、木場英久、田中徳久)
- 3月8日 野外観察「早春の植物ウォッチング」【参加者22名】[南足柄市夕日の滝] (講師：学芸員 勝山輝男、木場英久、田中徳久)
- 3月16日 室内実習「鉱物観察の仕方—入門編—」【参加者54名】[博物館] (講師：客員研究員 加藤昭)
- 3月19日 野外観察「身近な自然発見講座—植物の観察を中心として—」【参加者30名】[博物館周辺] (講師：学芸員 勝山輝男)
- 3月20日 開館2周年記念講演会【参加者86名】「3年目を迎える博物館の新しい活動—友の会の発足を中心にして—」(講師：館長 濱田隆士)、「博物館をこんなふうを活用してみませんか—友の会活動のヒント—」(講師：平塚市博物館学芸員 浜口哲一)
- 3月25～29日 開館2周年記念 学芸員による展示レクチャー
- 3月26日 室内実習「博物館探検隊」【参加者40名】[博物館] (講師：学芸員 佐藤武宏)
- 3月29日 室内実習「鉱物観察の仕方—中級編—」【参加者66名】[博物館] (講師：客員研究員 加藤昭)
- 3月30日 室内実習「鉱物観察の仕方—上級編—」【参加者59名】[博物館] (講師：客員研究員 加藤昭)

ライブラリー通信

人魚の涙

先頃、岩手県種市町で、約8700万年前の鳥類の後羽化石を含んだ琥珀(こはく)が見つかりました。体温を保つ役割の後羽の化石そのものが発見されたのは、世界でも初めての事です。この化石を閉じ込めていた琥珀は、太古の樹木から出た樹脂が変化してできたもので、「樹脂の化石」と言われています。

世界の琥珀の三大産地は、バルト海沿岸地方、ドミニカ共和国、そして日本の岩手県久慈地方で、中でも久慈は恐竜時代までさかのぼれます。また、産出量は多くはないのですが、古さの点で久慈を越える所が、日本には数か所あります。銚子、宮古、三笠、いわき等ですが、銚子からは世界で二番目に古い、いわゆる“虫入り琥珀”が見つかっています。ドミニカ琥珀にはアリやハチ、コオロギなどの昆虫のほか、カエルやヤモリ、トカゲまでもが入っていて驚かされます。

現在入手可能な琥珀に関する文献は、残念ながらあまり多くはありません。バルト海沿岸の琥珀について書かれた『こはく』(新読書社)、『日本の琥珀』(北九州自然史友の会)や雑誌の特集として琥珀を取り上げたものに、「虫入り琥珀の世界 Biohistory Vol.2 No.3」(生命誌研究館)、「琥珀に閉じ込められた虫たち 日経サイエンス 1996年6月号」(日経サイエンス社)があるくらいです。

バルト海沿岸では琥珀のことを“人魚の涙”とも呼んでいます。その昔、愛していた人間の男に裏切られた人魚の流した涙が、冷たい海の底で凍り、琥珀になったというのです。いかにも北欧らしいお話ですね。(司書・土屋定夫)